すきがけ

6月24日（土）静岡労政会館において、静岡県労働者学習協会第45回総会が開かれました。原田会長のあいさつの後、メッセージとして労働者教育協会、愛知学習協、静岡県評が紹介されました。議案の提案に続き、各地から学習会の様子などが報告されました。

また当日の午後、同じ会場にて「戦後日本経済史」学習講演会が開催されました。第1回目は、講師が友寄英隆氏（元『経済』編集長）で「対米従属とグローバル化で見る戦後日本資本主義の発展」と題して講演し、23名の方が参加しました。

静岡県労働者学習協会
〒424-0105
静岡市清水区
山切45-18　多田
TEL 054-365-0433

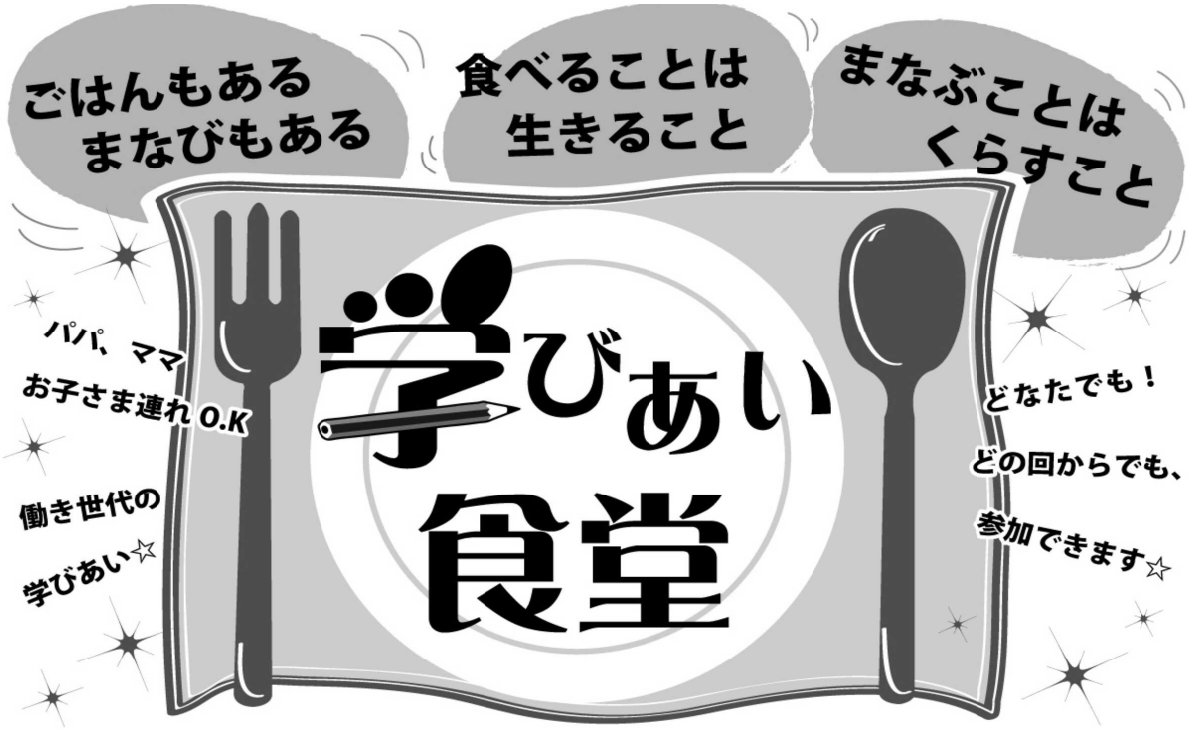
対米従属とグローバル化で見る戦後日本資本主義の発展

友寄英隆氏（元『経済』編集長）

戦後日本資本主義を分析するときには、国際関係一日米関係の視点が欠かせない。同時に、日本独占資本の急速な資本蓄積による米国と日本の不均等発展の法則の作用も重要である。

日本資本主義の歴史的展開過程をとらえるためには、戦前と戦後の資本主義を分断してバラバラにとらえるのではなく、明治維新以降の１６５年余の歴史を総体的にとらえることが重要である。現代日本資本主義の矛盾は、戦前、戦後の歴史的経過のなかで解決できなかった矛盾が幾重にも層をなしており、今日の安倍政権の政治・経済路線は、そうした矛盾をますます拡大・内攻させている。

日本資本主義は、これまで歴史的な変革の時代を二回経験してきた。第一回目は「明治維新」である。それまでの江戸幕府が崩壊して、天皇中心の新しい国家ができた。第二回目の改革は、１９４５年の敗戦からはじまった。この時期の特徴は、対外的には対米従属という異常な状態が続き、国内的には一定の民主的な改革が実現した。そして、いま日本は、第三の改革期、新たな歴史的変革をおこなう時代を迎えている。２１世紀の新しい日本改革は、日米軍事同盟を廃棄し、憲法の平和理念を本当に日本で実現し、世界にたいして「戦争のない世界」をよびかけていく世界史的な意義をもっている。



世の中の先行きが見えない…！これから日本はどうなるの？？

1月25日（水）、仕事帰りでも、子連れでも、夕食をともにしながら、大人は学習、子どもたちはフロアでおもちゃで遊ぶというスタイルの「学びあい食堂」がスタートしました！参加者は働き世代やママさんを中心に、15名。

前々から青年を学習会に組織し、学習活動を通して労働組合を強化するにはどうするかという問題意識は、学習協で論議されていた。

全国の経験に学んで、16年11月に、浜松学習協で西部地区労連と協議の場を持った。地区労連も新しい組合が誕生したばかりで、若者の学習を組織する必要性を感じていて、いいタイミングであった。「ママの会」メンバーにも加わってもらい、17年1月から10回講座としてスタートした。

テキストは、「学習の友」で連載されている「現代に生きる基礎理論」を使い、講師は4人で分担した。夕食を用意し、ご飯は地区労連で炊き、カレーはママの会員が自宅で作ってくる。参加費は、毎回300円。自己紹介で、職場で抱えている問題も出され、「学んでいくことが楽しみ」という感想が参加者から出てきた。（浜松支部・長坂氏）

静岡市社会科学・学習会

『経済』掲載「『資本論』全３部を歴史的に読む」第２回学習会

「『資本論』全３部を歴史的に読む」の第２回学習会が６月23日に開かれ、８名が参加しました。『経済』６月号に掲載された第２回の論文を読み合わせ、その後意見交換を行いました。「『資本論』を学んでいるが『全体労働者』という概念については初めて知った。不破さんの論文は要点をまとめていて参考になる」、「生産活動をしていない公務員やサービス労働者、保育士の賃金はどの様に決まるのか。」など様々な意見が出されました。

『資本論』読み合わせ学習会　第15回学習会

６月22日（木）第15回『資本論』学習会を開き8名が参加しました。今日から新日本新書版の第２分冊に入りました。内容は第１節の「資本の一般的定式」です。本文読み合わせとポイント説明の後、意見交換に入りました。「Ｇ－Ｗ－Ｇなどの上に循環、形態と書かれているがこの意味は何か」「今日の学習範囲で『資本論』で初めて剰余価値、資本家という言葉が出てきてその意味合いも説明されている。大事な部分ではないか」などの意見がだされました。

「現代経済学習会」　第６回学習会

６月20日（火）「現代経済学習会」を「アイセル21」にて開き『経済』６月号の「平和主義と戦後日本経済の発展」と「生活苦を食いものにする大銀行カードローン」の２本を読み合わせし討論を行いました。「戦後の日本経済の発展は、『憲法９条』により軍事費押さえ、公共事業や大企業への経済援助を進める中で進んで来た」「このような事を銀行に許している安倍政治を変えていく事が重要、選挙で安倍政権を倒す事が重要」などの意見が出されました。

寺子屋in池田学習会

６月２８日（水）静岡市池田公民館において、「今問われるメディアの姿勢」と題して、静岡新聞元論説委員の小笠原康晴氏が講演を行いました。

「ＮＨＫ」で際立つ「安倍寄り」報道、「読売」の官邸圧力を証言した前川前文科省事務次官のキャバクラ記事、正義派キャスターの番組排除などで、メディアへの信頼が遠のいています。「静岡新聞」の良心を体現し、奮闘されている元論説委員小笠原康晴氏を迎えた特別企画・講演会で、約30名が集まりました。

小笠原氏の講演の一部を紹介します。「全国の新聞の状況は、依然と比べ、800万部も減っている。これは朝日新聞一社がなくなったのと同じ規模です。その原因は、SNSの発達などで、若い人が新聞を読まなくなっていることがあります。県大や静大の学生たちとカフェみたいな形で、新聞の話をしています。菅官房長官に対し追求した東京新聞の望月記者のようなが姿勢が必要です。」

静岡市『学習の友』学習会

６月２２日（木）静岡県評会議室にて、静岡市『学習の友』学習会が開かれました。

６月号の特集は「沖縄、米軍基地をめぐるQ&A」です。読み合わせをした中で「沖縄問題の基礎」ともなる記事として、寺田英明愛知学習協常任理事の「沖縄の歴史と闘い」を紹介します。

１９４５年４月１日、沖縄本島へ米軍が上陸します。４５万人の沖縄の住民は、戦場から逃げる機会を失い島に取り残されました。軍部中央が「本土決戦の準備のため捨て石となって時間を稼げ」と命令し、南部への撤退との作戦変更をします。既に１０数万の住民が南部で避難生活を送っていましたが、日本兵が割り込み「集団自決」「スパイ狩り」など住民を虐殺する事件が多発します。沖縄戦の正式な降伏調印式は本土より遅れます。３か月の地上戦で、正規軍人より一般住民の犠牲者がはるかに多かったのです。

勤労者通信大学2017年度募集

勤労者通信大学は、通信制の大学で、次の３コースがあります。

○**憲法コース**：６ヶ月　１万円

憲法9条を改悪しようする安倍首相は、いよいよ本格的に動き出しています。戦争する国づくりを許さないために学習が大切です。

○**労働組合コース**：６ヶ月　１万２千円

人間らしく生き、働ける社会と職場を

○**基礎コース**：９ヶ月　１万５千円

流されず、あきらめずに、しっかりと生きる力を

２０１７年９月まで受講申し込みを受け付けています。